

進化する腕時計 G-SHOCK

全世界に展開中のG-SHOCK。国境や文化を超えて、世界中の人に受け入れられています。発売から25年以上を経て、累計5,000万個以上が売れ、なおもロングセラーを続ける背景には、基本コンセプトと一体となった技術とデザインで、あくなき「進化」を続ける開発姿勢があります。

全方向ガード構造

ケースやベゼルの形状をどの方向へも突き出たようにすることで、あらゆる方向からの落下衝撃を受け止め、ボタン、ガラス、裏面へ直接衝撃が伝わらないように緩和。

タフソーラー

太陽光はもちろん、蛍光灯などの光を動力に変換。ソーラーパネルで光を受けて発電し、内蔵の二次電池に充電することで、時刻表示をはじめ、アラームやライトなど、強い負荷のかかる機能も安定駆動。



ソーラーパネル

中空構造

心臓部のモジュールは、ケースの中で、緩衝材の中に浮かんだような形になっており、点で支えられているので、外部からの衝撃が直接伝わらない。最新のアナログモデルに搭載している「タフムーブメント」は、モジュール自体が耐衝撃性を装備。

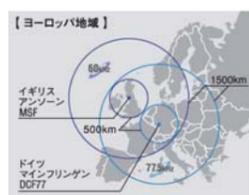
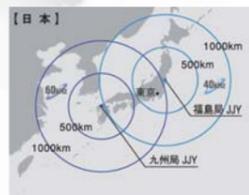
緩衝パーツ

ムーブメント裏側からの衝撃を緩和。



電波受信機能

時刻情報の載った標準電波を受信して時刻を補正する電波時計機能。最新モデルでは世界6局（日本2局、アメリカ、ドイツ、イギリス、中国）に対応。



■常識への挑戦と進化

壊れない時計をつくる

カシオが時計事業に参入した1970年代当時、腕時計は「落としてはいけない、デリケートな精密機械」でした。その常識を覆したのが、1983年に発売した耐衝撃腕時計「G-SHOCK」です。「どこでも安心して使えるよう、落としても壊れない丈夫な時計をつくらう」と考え、ビルの窓からの落下実験を繰り返しては、壊れ方を分析して構造設計を考え直し、試行錯誤を続けました。その結果、衝撃を和らげる柔らかい素材と硬い材質のフレームを組み合わせ、心臓部のモジュールを何重もの耐衝撃構造で守る設計により、10メートルの高さから落としても壊れない時計を完成させました。

G-SHOCKブーム到来

発売後、ハードな環境でも使える実用的な時計として評価を獲得。耐衝撃性能のイメージを伝えるために、アイスホッケーのパックの代わりにG-SHOCKを打つというCMをアメリカで流したところ、これを本当に実験して成功した番組が放映されて話題になり、そのユニークなスタイルと防水・耐衝撃性能がファンを増

やしていきました。90年代になるとアメリカ西海岸から若者のファッションとともに伝わり、日本でもG-SHOCKブームが到来しました。

あくなきタフネスの追求

G-SHOCKの原点は、防水・耐衝撃性によるタフネスにあります。このコンセプトを常に追求し、新しいタフネス技術を開発してきました。泥だらけになっても時計内部には泥が入らない構造や、海上での使用でも錆びにくいチタン素材の採用など、あらゆる「タフな環境」を想定し、これを克服する新たな耐久性能を採り入れていきました。このタフネスへのこだわりが、G-SHOCKが多くのファンの支持を集めている、最も大きな理由です。最新モデル「SKY COCKPIT」では、時速370kmで旋回する飛行機の中でも、安定して針を動かせる耐遠心重力性能を装備しています。

電波ソーラー技術で新たなステージへ

近年、G-SHOCKは新しいチャレンジとして、耐衝撃性を確保したまま、時計本来の基本性能を高める電波ソーラー技術を搭載しました。

正確な時間を表示できる電波時計も、光で発電するソーラー駆動も、誰もが必要とするものであり、基本コンセプトである耐衝撃性と同様、信頼性を支える機能です。この新機能をまとうことで、G-SHOCKは、新たなステージへと進化を遂げました。

テクノロジーによる進化とデザインへの昇華

腕時計のブランドは、機能とデザインの両面が良くなければ満足されません。G-SHOCKでは、衝撃を和らげるためのプロテクターや、センサーなどが、必然的に外観にも表れた形にして、機能とデザインを高度に一体化し、開発コンセプトが使う人に感じてもらうようにしています。G-SHOCKの機能とデザインは切り離すことができない関係であり、ブランド力を高める要素として、コア技術の進化を見せるデザインを重視しています。

これからもG-SHOCKは、進化を止めることはありません。常識を覆し、進化し続けることが、G-SHOCKのアイデンティティーです。



取締役
時計事業部長
増田 裕一

エレクトロニクスで世界オンリー・ワンの時計をつくる

カシオは、エレクトロニクス技術を背景にデジタルウォッチを開発し、以来30年間、スイスウォッチに代表されるメカニカルウォッチとは異なるアプローチで新しい時計を追求し、G-SHOCK、Baby-G、PROTREK、OCEANUS、EDIFICEといったブランドを確立しています。

メカニカルウォッチは、同じ製品が世代を超えて長く使われる、伝統と匠の世界ですが、私たちが目指すのは、これとは全く異なる価値観です。エレクトロニクス技術を活かせば、LSIや

センサーを組み合わせ、メカニカルウォッチでは不可能な表現ができます。これまで、カシオは液晶による多機能デジタルウォッチでこれを表現してきましたが、これからはアナログウォッチでも、エレクトロニクス技術を活かして針や文字板の動きを組み合わせた多彩な表現、多彩な機能を提供します。例えば、クロノグラフなどの複雑な多針を独立したモーターで別々に回転させたり、文字板そのものを回転させるといったことも自在に可能です。こうしたテクノ

ロジーを柔軟に採り入れながら、常に進化を続けることが、時計市場でのカシオのポジションだと考えています。

時計自体の概念を変えて、市場をもっと活性化したい。いつも興味をもって注目されるような文化を、時計業界で創造していきたいと思っています。オンリー・ワンの時計をつくり、エレクトロニクスウォッチで、世界を代表する企業になることが目標です。